



10か国、246名の研究者の熱い議論が展開

第19回産研国際シンポジウム 第14回産研ナノテクシンポジウム

大阪大学
産業科学研究所

The Institute of Scientific and Industrial Research, Osaka University



産研定例記者会見も同時開催



- 第19回産研国際シンポジウム・第14回産研ナノテクシンポジウム
- 産研・産研協会 産学連携の新たな取り組みを開始
梅田に産研協会のフロントオフィスを開設
- 阪大産研の独自抗菌・抗ウイルス技術が阪大ノベルティーグッズに
- プレスリリース ● 第71回学術講演会
- 東京ビックサイトに出演 nano tech 2016/Printable Electronics 2016
- 大阪大学中之島サイエンスカフェ
- 附置研究所間アライアンス第3回若手交流会 第4回アライアンス技術支援シンポジウム ● 施設見学
- 奈良一条高校サイエンスセミナー ● 第22回蛋白研技術部・第28回産研技術室合同報告会
- OB/OG交流会 ● 産研国際交流パーティ・ハラスメント防止に関する講演会

2016.03

vol.

57

第19回産研国際シンポジウム 第14回産研ナノテクノロジーシンポジウム 開催

第19回大阪大学産業科学研究所国際シンポジウムが、第14回産業科学ナノテクノロジーセンター国際シンポジウム、第3回関西ナノテク国際シンポジウム、第11回阪大ナノテク国際シンポジウムとの共催で、日本学会協議の後援を受け、2015年12月7～9日の3日間、大阪大学銀杏会館にて開催されました。

今年のシンポジウムのテーマは、「Recent Advances in Cyber-Physical Systems」と題し、最近盛んに研究が進められている“モノのインターネット (Internet of Things:IoT)”を真に実現するための最先端の研究開発を7つのセッション、およびポスターセッション、合計8つのセッションに分けて発表されました。

10カ国から246名の研究者が集い、情報科学、システム、デバイス、バイオ、プロセス、材料、ナノテクノロジーという広範な分野における次世代の研究開発、研究領域融合、新技術、新ビジネス創成を目指して熱い議論が展開されました。



産研定例記者会見・研究室見学も同時開催

産研国際シンポジウムの開催に合わせ、12月8日は産研大会議室で産研定例記者会見を実施しました。関谷毅教授による産研国際シンポジウムの紹介の後、飯嶋益己特任助教(黒田研)、Shreyam Chatterjee特任研究員(安蘇研)、小野亮生助教(松本研)、木山治樹助教(大岩研)の4名が最新の研究について発表しました。会見終了後はお越し下さった記者の方々を発表者の研究室にご案内し、マスコミ関係者の方々に産研の最新の研究をご紹介します絶好の機会となりました。



阪大産研の独自抗菌・抗ウイルス技術が 阪大ノベルティグッズに「勝負マスク」提供開始

大阪大学のノベルティグッズとして、医薬品化学研究分野(加藤研)の開発邦宏特任准教授が阪大発ベンチャー「プロテクトリア」との共同技術開発によって実用化した独自抗菌・抗ウイルス技術を搭載した「勝負マスク」の提供が開始されました。

このマスクは、阪大発のウイルス・細菌対策新技術「CateProtect」を不織布に加工したものです。「CateProtect」は、インフルエンザウイルス、ノロウイルスなどのウイルス病原体に加え、30種類以上の細菌病原体への効果も確認されており、その効果は日本防菌防黴学会でも研究論文として報告されています。

大阪大学では、このマスクを「がんばる人を応援する」ノベルティグッズとして阪大オリジナルのパッケージで作成し、今後、阪大を目指す高校生向けの入試説明会やイベント等にて、「勝負マスク」として参加者に配布しています。



産研・産研協会 産学連携の新たな取り組みを開始 梅田に産研協会のフロントオフィスを開設

産業科学研究所と一般財団法人大阪大学産業科学研究協会は、協力して産学連携の新たな取り組みを2016年1月18日より開始しました。これまでは大学が企業の技術相談や分析・解析などのニーズに応えるには、共同研究契約などを結ぶことが必要でした。今回新たに、産研と産研協会が包括共同研究契約を結んだことにより、企業は個々の研究者と共同研究契約などを結ぶことなく、産研協会に技術相談や支援の申し込みを行うことで、産研の教員との技術相談や研究施設の利用が可能になりました。

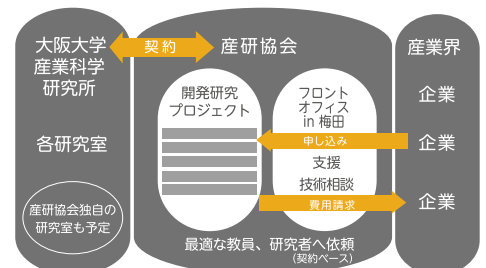
この仕組みを広く活用していただくため、相談の窓口や打ち合わせのスペースとして、梅田の大阪富国生命ビル4Fまちラボ内に、産研協会フロントオフィスを開設しました。

また、産研内にある産学連携のための共同研究施設「インキュベーション棟」を活用し、企業が大学の施設を利用し、実験や研究を進める開発研究プロジェクトを開始しました。

この取り組みが新たな足掛かりとなり、産業界との距離を縮め、産学連携による研究開発がより一層進むことが期待されます。



オフィスは開放的なスペースです。気軽にお立ち寄りください。



press release

<http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/>

研究機関、他大学などとの共同でプレスリリースや雑誌掲載された研究成果をピックアップして紹介します。詳細は、産研HPをご覧ください。

動きのビッグデータから人工知能技術を使って運動技能の獲得を支援する ～コンピュータで技を伝承する基礎技術を開発～

知能推論研究分野(鷲尾研究室)

国立大学法人筑波大学 システム情報系山際伸一准教授らの研究グループは、知能推論研究分野(鷲尾研)の河原吉伸准教授とミズノ株式会社と共同で、スポーツの技を獲得するためのヒントを、動きを捉えたセンサーや映像のデータを多数収めた、いわゆる「動きビッグデータ」から、目標とする理想の動きへの道筋を教示してくれる技術を開発しました(特許出願中)。



嗅覚センサーの業界標準を目指す「MSSアライアンス」発足 ～MSS技術実用化に向けた基礎的要素技術確立を目指して～

知能推論研究分野(鷲尾研究室)

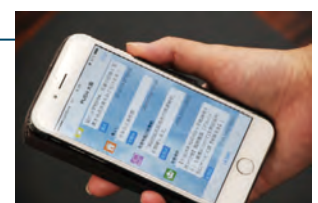
国立研究開発法人 物質・材料研究機構、京セラ株式会社、大阪大学、日本電気株式会社、住友精化株式会社、NanoWorld AGの6機関は共同で、超小型センサー素子「MSS (Membrane-type Surface stress Sensor / 膜型表面応力センサー)」を用いたニオイ分析センサーシステムの実用化・普及を加速させるために業界標準(de facto standard)を目指す「MSS(エムエスエス)アライアンス」を平成27年9月25日に発足しました。このアライアンスに知能推論研究分野の鷲尾隆教授が検知対象ガス成分に応じた計測データ解析モデルの研究開発に取り組みます。



市政情報発信アプリの地域展開に向けた共同研究を大阪大学と豊中市が開始 市政情報をスマートフォンで手軽に地域住民へ!

知識科学研究分野(駒谷研究室)

大阪大学と豊中市は、市民がIT技術を使って地域の課題を解決する取組み「シビックテック」発の市政情報発信アプリ「PUSH大阪」(<http://push.jp.net>)をベースに、豊中市民が施策やイベントなどの情報をスマートフォンなどでより手軽に入手できる「PUSH豊中市」の開発に向けた共同研究を開始しました。



「PUSH豊中市」は、市ホームページに掲載されている新着情報とイベントカレンダー情報を配信するもので、パソコンなどから閲覧できるほか、スマートフォン向けアプリからも情報を取得できるようにします。

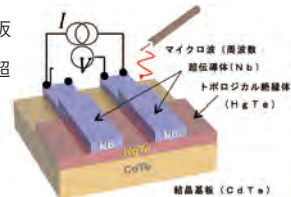
この共同研究は、大阪大学と豊中市が連携協力に関する包括協定を締結していることから実現し、10月30日に共同研究契約を締結。知識科学研究分野(駒谷研)の古崎晃司准教授が、「PUSH大阪」開発Teamの協力のもと本共同研究を行い、来年春の完成を予定しています。

トポロジカル絶縁体による4 π 周期の超伝導状態を世界で初めて観測 ～環境雑音に強い量子コンピューターへの期待膨らむ～

量子システム創成研究分野(大岩研究室)

東京大学大学院工学系研究科の樽茶清悟教授、理化学研究所創発物性科学研究センターのラッセル・スチュワート・ディーコン研究員、大阪大学産業科学研究所の大岩顕教授、ドイツのビュルツブルグ大学のローレンス・モーレンカンプ 教授らのグループは、トポロジカル絶縁体と超伝導体の接合において、エネルギーがゼロとなる状態を持つアンドレフ束縛状態を観測することに世界で初めて成功しました。

本研究成果は、2016年1月21日(日本時間)に英国のオンライン科学誌「Nature Communications」に公開されました。



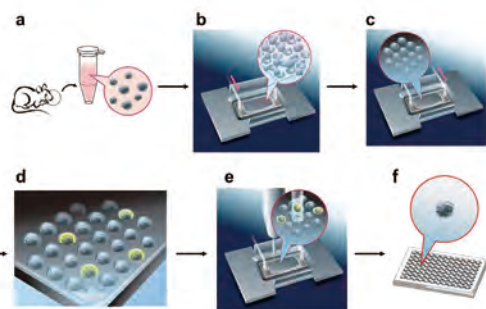
特定の匂い分子に反応する嗅覚受容体群の迅速な単離法を開発 ～哺乳類の高度な匂い分子を認識する機構の解明に期待～

生体分子反応科学研究分野(黒田研究室)

生体分子反応科学研究分野の黒田俊一教授・良元伸男特任准教授は、パナソニック株式会社先端研究本部の鈴木雅登主任研究員らとの共同研究で、特定の匂い分子に反応する嗅覚受容体群の網羅的かつ迅速な単離法を開発しました。

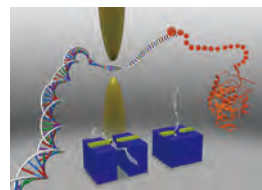
従来大変な労力を要した特定の匂い分子が作用する嗅覚受容体群(嗅覚受容体レパートリ)の網羅的解明を、簡便かつ迅速に同時に大量の処理・分析を可能とするとともに、任意の匂い分子だけを高度に検出するバイオセンサーへの応用が期待されます。

本研究成果は、2016年2月2日(日本時間)に「Scientific Reports」のオンライン版(www.nature.com/articles/srep19934)で公開されました。



DNA、RNA、ペプチドの1分子シーケンシング技術 バイオナノテクノロジー研究分野(谷口研究室)

バイオナノテクノロジー研究分野と、カリフォルニア大学サンディエゴ校のDi Ventra教授は、DNA、RNA、ペプチドの1分子シーケンサーの科学技術の開発状況を、理論と実験の両面から把握するとともに、実用化に向けた課題をまとめた研究論文を発表しました。研究成果は、2016年2月3日にネイチャー・パブリッシング・グループ(NPG)「Nature Nanotechnology」のオンライン速報版で公開されました。



第71回学術講演会

平成27年11月24日(火)に第71回学術講演会が開催されました。今回は産業科学におけるビッグデータの活用による新しい研究の動向について、産業科学研究所の構成員の相互理解を深めることを目指し、「システム・デバイス・材料の融合に向けて」をテーマといたしました。

午前中は、各研究室、附属施設、共通施設によるポスターセッションを行いました。引き続き、午後は講堂においてシンポジウムが開催されました。中谷和彦所長の開会の辞の後、来賓の八木康史大阪大学理事からご祝辞をいただきました。今回、東北大学電気通信研究所

所長の大野英男教授をお迎えし、「スピントロニクス素子とその集積回路応用」と題して特別講演を賜りました。続いて、沼尾正行教授から「センサデータ解析と時系列クラスタリング技術—電池の知能化と関連研究」、古澤孝弘教授から「レジスト材料開発における反応解析・モデリングとSEM画像からの情報抽出」、黒田俊一教授から「1細胞解析における全自動1細胞解析単離装置の意義」、西野邦彦教授から「複雑系生命の統合理解を目指し

て」、最後に小口多美夫教授から「ビッグデータ時代の物質・材料研究」をテーマにご講演いただきました。いずれのご講演も熱のこもったもので活発な意見交換がなされました。そして、吉田陽一副所長による閉会の辞で盛会のうちに終了いたしました。



東京ビッグサイトに出展 nano tech 2016 / Printable Electronics 2016

平成28年1月27日(水)～29日(金)、東京ビッグサイトにて開催された展示会に産研の研究室が出展されました。

nano tech 2016 第15回 国際ナノテクノロジー総合展・技術会議には、産業科学ナノテクノロジーセンターが、大阪大学ナノサイエンスデザイン教育センター、未来研究イニシアティブ、ナノサイエンス・ナノテクノロジーアライアンスと合同ブースで出展され、企業はもちろんのこと研究機関や海外からも来場者が多数訪れました。ブース内ではセミナーも開かれ、来場者は最新のナノテクノロジーについての研究紹介に大変興味をもたれ、活発な意見交換が行われました。



最終日には、オープンステージにて大阪大学におけるナノ科学技術の研究と人材育成についての紹介が行われ、大阪大学の活発な活動を宣伝する機会となりました。

また別のホールでは、Printable Electronics 2016が同時開催され、セルロースナノファイバー研究分野が出展されました。「透明な紙」を発明し、軽量かつ耐熱性が高いといった優れた特徴を紹介され、多くの来場者の関心を集めていました。また、将来のプリンタブルエレクトロニクス用基板技術として大きな市場性を秘めているとして、プリンタブルエレクトロニクス大賞(ビジネスモデル部門)を受賞されました。

両会場には3日間で5万人近くの来場があり、企業とのビジネスチャンスや研究機関との新たなコラボレーションの可能性が今後期待されます。

大阪大学中之島サイエンスカフェ・金水縁特任助教が紹介 「老化の原因だけじゃない。治療に役立つ活性酸素のはたらきとは」

平成27年11月4日、京阪電車なにわ橋駅アートエリアB1で開催された大阪大学中之島サイエンスカフェで、金水縁特任助教(真嶋研究室)が治療に役立つ活性酸素のはたらきをテーマに研究についてお話されました。

大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室・川人よし恵チーフ・リサーチアドミニストレーターがカフェマスターとして進行役を務め、金特任助教は、老化などを引き起こすことで知られる「活性酸素」の有用な働きや、患部ではたらく活性酸素を検出する物質の開発や最新の研究の動向についてお話されました。参加者から研究・開発への関心を寄せる質問も多く、有意義なひとときとなりました。



写真提供：大阪大学 大型教育研究プロジェクト支援室

附置研究所間アラアインス 第三回若手研究交流会 ～ 顔の見える共同研究 ～ 第4回アラアインス技術支援シンポジウム

平成27年11月16日・17日の2日間、九州大学筑紫キャンパスで第三回アラアインス若手研究交流会が開催され、産研の教員が参加しました。若手教員の呼びかけで発足されたこの交流会は、研究者間附置所の垣根を超えた異分野交流を目的としており、今年で第三回を迎えました。



「顔の見える共同研究」をサブテーマに、実際に動き出した共同研究や、進行中の異分野融合について報告があり、全員参加型

での研究会の実現や意見交換を行い、より具体的な附置研究所間の連携がより一層深まる絶好の機会となりました。

また、第4回アラアインス技術支援シンポジウムが同じく九州大学筑紫ホールにて同時開催されました。産研からは、古川和弥技術職員が「Lバンドライナック電子銃用DC高電源の導入」について発表を行い、田中高紀技術室長が「技術職員として42年」と題した講演を行いました。ポスター発表は両イベントの合同で行われました。



今年度の高校生・大学生の施設見学者、500名を超える

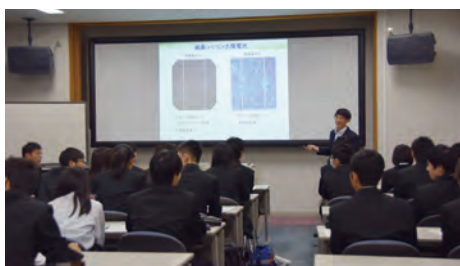
平成27年10月～12月の間にも高校生・大学生が見学に訪れました。今年度の施設見学に来所した高校生・大学生・引率者の数は500名を超え(平成28年2月現在)、多くの方に産研の最新の研究内容や設備を見学して頂きました。

- 10/7・9 島根県立松江高等学校 (知的財産研究分野)
- 10/16 国立奈良工業高等専門学校(総合解析センター、中谷研、笹井研)
- 10/26 インドネシアNGO団体APIMUN(高校生・大学生)
(総合解析センター、量子ビーム科学研究施設)
- 11/9 開智高等学校
(量子ビーム科学研究施設、総合解析センター、ナノテク先端機器室、ナノ加工室)
- 12/21 大阪国際学園大和田高等学校
(大岩研、量子ビーム科学研究施設、ナノテクノロジー設備供用拠点)

ご協力を頂きました皆様、誠にありがとうございました。



奈良市立一条高等学校×小林光研究室 サイエンスセミナーを開催



平成27年11月13日、一条高校の数理科学科2年生40名が小林研究室を訪れ、サイエンスセミナーが開催されました。このセミナーは、文部科学省とJSTの次世代人材育成事業として本年度に採択された「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」の一環として実施されたものです。一条高校と小林研究室は2004年より「SPP:サイエンス・パートナーシップ・プログラム(文科省・JST)」で高大連携事業を続けており、今回のプログラムは、それを更に発展した内容となりました。

「研究とは何か!半導体デバイスの開発」と題した小林光教授の講演

に生徒さん達は真剣にメモを取りながら耳を傾け、午後は「最先端研究の現場体験」として総合解析センターと小林研究室を見学しました。

同校の犬伏雅士 数理科学科科長は、「研究開発を主軸とする一方で、このように次世代育成にも力を注いでくださる小林研究室の先生方や大学院生の皆さんの理数教育への深い理解と御尽力に心から感謝しています。」と話されていました。

次世代を担う高校生にとって、将来の進路や自身の在り方を見つめるきっかけとなることを願うばかりです。



第22回蛋白研技術部・第28回産研技術室 合同報告会

平成27年12月4日、産研講堂において技術室主催の「第28回技術室報告会」を開催しました。この報告会は、今から34年前の1982年(昭和57年)4月に技術室が設置され、その5年後の1987年(昭和62年)3月13日に第1回が開催されたもので、その年の7月1日には、第1号の技術室報告誌を発行しています。

当日は、沼尾正行技術室運営委員長にご挨拶と特別講演をいただいた後、熱のこもった技術発表が展開されました。近年、研究所において技術支援を担う技術職員には、ますます高度かつ幅広い技術と知識が必要とされるようになってきています。この状況に対応するため、部局を超えた技術職員の交流・連携によって職員個々のモチベーションをアップさせ、仕事への意欲を培い、総合力の向上につなげていく必要があります。今年は初の試みとして、蛋白研技術部との合同開催に至りました。この結果、産研内外から40名を超える参加者があり、盛況となりました。



挨拶される沼尾運営委員長



発表の様様

「第3回産研OB・OG／学生交流会」を開催



11月24日、産研インキュベーション棟講義室にて、産研院生会議、産業科学連携教育研究センター、企画室の共催により「第3回産研OB・OG／学生交流会」を開催し、産研OG2名および現役学生が45名参加しました。

今回は、塩野義製薬株式会社フロンティア研究所の余語恵梨香さん(加藤研卒)、株式会社



リクルートキャリアの林明日香さん(旧新原研卒)をお迎えし、これから社会へ出る後輩へ向けて、社会に出てわかる産研の強み、学生時代しておくべきこと、企業で働くということ等、現在企業で活躍されているOGの視線からアドバイスを頂くとともに、質疑応答や交流が行われ、OGと学生の親睦が図られました。

平成27年度「産研国際交流パーティー」開催

12月17日(木)微研食堂「Kitchen BISHOKU」において、産研国際交流パーティーを開催いたしました。

この催しは、本研究所において日々研究等を行っている外国人研究者、留学生の方々と、教職員やチューター等との親睦を深めることを目的として毎年開催されており、今年は中国、韓国、台湾、インドなど各国から来日した外国人研究者等65名が出席しました。

沼尾教授の司会進行により、中谷所長の開会挨拶、大岩教授の乾杯の発声で始まり、出席者は日本での研究や日常生活等の話題について歓談し、国際交流と研究室を超えた交流を図る機会となりました。最後は小口教授の一本締めで和やかに終了しました。



平成27年度「ハラスメント防止に関する講演会」開催



11月25日(水)、産業科学研究所講堂において「ハラスメント防止に関する講演会」を開催いたしました。

本講演会は、ハラスメントに対する理解を深め、良好な組織環境を形成することを目的として毎年所内で開催しているものです。

今年度は、本学ハラスメント相談室専門相談員 濱田 綾氏による「大学でのハラスメントについて考える」と題した講演が行われました。

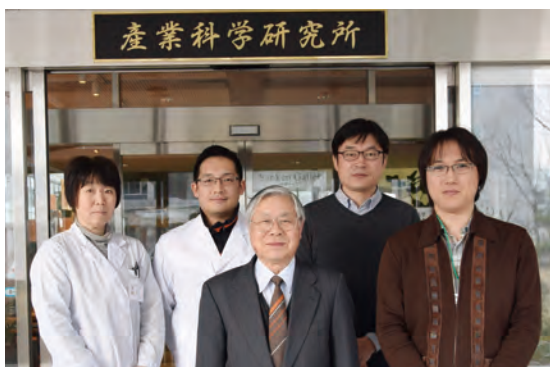
約40名の教職員及び学生が参加する中、ハラスメントに係る全体像、ハラスメントが発生する背景、トピック及び相談を受けた場合の考え方などについての説明並びに架空事例を用いたグループワークを通じた意見交換が行われました。

ハラスメントは誰の周りにも起こりうるものであることが理解でき、改めて日頃のコミュニケーションを大切に、風通しの良い就労・学業環境を築くことが重要であることを再認識し、ハラスメント防止に対する意識の向上を図る良い機会となりました。

低分子IL-6阻害薬の研究開発を中心として 免疫疾患診断・治療と繋がる基礎研究—吉崎グループのご紹介

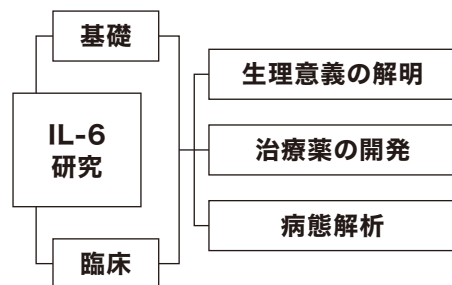
2015年9月より第1研究棟F272 Labに引越して来た加藤研(医薬品化学研究分野)・吉崎グループは、包括的にIL-6関連研究を行っておりますが、近年低分子IL-6阻害薬の研究開発を中心として免疫疾患診断・治療と繋がる基礎研究を行っております。

吉崎グループはそれ以外にも抗IL-6阻害治療をツールとした炎症性貧血の発症機構の解析によって、IL-6が鉄代謝の重要制御因子ヘプシジン(hepcidin)を介してキャッスルマン病(MCD)及び関節リウマチ



(RA)における炎症性貧血に直接的に関与することを研究しております(Blood 2010; Arthritis Res Ther 2013)。また、RA患者に対し、治療前に生物学的製剤の治療効果を予測できる方法を世界で初めて発見し、臨床に直接貢献する研究も行ってまいります(PlosOne 2015)。

産研に来てまだ本格研究活動期間が短いですが、先生方や学生の皆さんの活気に満ちた雰囲気を感じました。産研で専門分野を超えた横・縦の繋がり、所内の研究会や国際・国内シンポジウムの開催など、幅広い交流ができる環境を体験しました。今後、この優れた環境で様々な分野の研究者と繋いで、斬新なideaを吸収し、新たなIL-6阻害分子標的薬の研究・開発を目指しますので、御指導、御協力よろしくお願い致します。



Hot Topics

研究成果などをピックアップしてご紹介します。
詳しい内容は、産研ホームページをご覧ください。

次期所長候補者 中谷和彦教授に決定

平成28年1月21日、次期所長候補者に中谷和彦教授が選出されました。

任期は平成28年4月1日からの2年間です。中谷所長のご挨拶など次号で詳しくお伝えします。

八木康史教授、能木雅也准教授、開発邦宏特任准教授がテレビで紹介されました

12月14日、NHKの朝のニュース「おはよう日本」でインフルエンザ対策をテーマにしたコーナーで開発邦宏特任准教授らが開発したマスクが紹介されました。

同月21日には、読売テレビの情報番組「かんさい情報ネットten。」で「防犯監視カメラが見た1年」の特集で、八木康史教授の「歩く姿」だけで本人が特定できる歩容認証に関する研究が紹介されました。

また、1月12日放映のNHKの情報番組クローズアップ現代の「未来の紙」が世界を変える!? ～日本発・新素材の可能性～の特集で、能木雅也准教授の研究が紹介されました。テレビ放映後は一般の方々からもお問合せを頂くこともあり、幅広い層から今後の研究の発展性に関心が寄せられている様子が伺えます。

国際交流



ミネソタ大学バイオテクノロジー研究所のSadowsky先生、Travisano先生、前大阪大学サンフランシスコ教育研究センター長の久保井先生が来所(平成27年11月19日)



JSPS(独立行政法人日本学術振興会)の二国間交流事業の一環として、タイ保健省の若手研究者が共同研究を行う医薬品化学研究分野を訪れ、セミナーを開催(平成27年11月24日)

受賞一覧 (平成27年10月1日～平成28年1月31日)

| | | |
|---------------------|--|-----------------------------------|
| 関野 徹 | 平成27年度日本接着歯学会論文賞 | 日本接着歯学会 |
| 池本 祥 | グラフィクスとCAD研究会優秀研究発表賞 | 情報処理学会グラフィクスとCAD研究会 |
| 竹中 和浩 | 第13回有機合成化学協会関西支部賞 | 有機合成化学協会関西支部 |
| Danaipat Sodkomkham | The 3rd Prize from an Online Machine Learning/Data Science Competition | DrivenData Inc. |
| 関野 徹 | 第70回(平成27年度)日本セラミックス協会賞学術賞 | 日本セラミックス協会賞 |
| 八木 康史 | 第5回バイオメトリクスと認識・認証シンポジウム優秀ポスター発表賞 | 第5回バイオメトリクスと認識・認証シンポジウム(SBRA2015) |
| 横原 靖 | // | // |
| 村松 大吾 | // | // |
| 関野 徹 | IUMRS-ICAM2015 ベストポスター賞 | MRS世界ユニオン |
| 藤井 賢佑 | // | // |
| 吉田 哲郎 | 日本放射線化学会 若手ポスター賞 最優秀賞 | 公益社団法人 日本放射線化学会 |
| 関谷 毅 | 第12回(平成27年度)日本学術振興会賞 | 日本学術振興会 |

新任教職員一覧 (平成27年10月1日～平成28年1月31日)

| | | |
|-------------|-----------------------------------|---|
| 平成27年10月1日 | 採用 助教(生体分子制御科学) | 西野 美都子 |
| | 採用 特任助教(助教)(量子ビーム発生科学) | 藤本 将輝 |
| | 採用 特任助教(助教)(バイオナノテクノロジー) | 大城 敬人 |
| | 採用 特任助教(助教)(ナノテクノロジー設備供用拠点) | 法澤 公寛 |
| | 採用 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | 木原 誠一郎 |
| | 採用 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | 下山 章夫 |
| | 採用 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | 藤田 浩史 |
| | 採用 特任研究員(常勤)(先端実装材料) | 関 伸弥 |
| | 採用 特任教授(半導体材料・プロセス) | 寺川 澄雄 |
| | 採用 特任教授(先端実装材料) | 山村 圭司 |
| | 採用 特任研究員(客員教授)(励起分子化学) | 杉本 晃 |
| | 採用 特任研究員S(先端実装材料) | 張 昊(ZHANG Hao) |
| | 採用 特任研究員(総合解析センター) | ISMIYARTO |
| | 採用 技術補佐員(複合知能メディア) | 松本 佳子 |
| | 採用 技術補佐員(複合知能メディア) | 妹川 桂子 |
| | 採用 技術補佐員(複合知能メディア) | 橋本 尚子 |
| | 採用 事務補佐員(励起分子化学) | 富永 早苗 |
| | 採用 事務補佐員(バイオナノテクノロジー) | 藤林 乃理子 |
| | 採用 事務補佐員(総務課総務係) | 駒井 彩乃 |
| | 採用 外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター) | CHOI Jungkweon |
| | 配置換 総務係主任 | 澤田 智子(未来戦略支援事務室総務係主任から) |
| | 配置換 財務係主任 | 正木 尚子(医学系研究科保健学事務室会計係主任から) |
| | 配置換 契約係主任 | 木村 英明(基礎工学研究科契約係主任から) |
| 平成27年11月1日 | 採用 准教授(複合知能メディア) | 村松 大吾 |
| | 採用 准教授(先端実装材料) | 長尾 至成(先端実装材料 特任准教授(常勤)から) |
| | 採用 助教(先端ハード材料) | CHO Sunghun |
| | 採用 特任研究員(機能物質化学) | 坂本 勇樹(特任研究員(常勤)から) |
| | 採用 技術補佐員(医薬品化学) | 阿字地 佳納子 |
| 平成27年11月16日 | 採用 特任研究員S(複合知能メディア) | GRUSHNIKOV Andrey |
| 平成27年12月1日 | 採用 特任助教(常勤)(精密制御化学) | MUKHERJEE Sanjukta |
| | 採用 特任研究員S(複合知能メディア) | 白神 康平 |
| | 採用 事務補佐員(複合知能メディア) | 田頭 直子 |
| | 採用 事務補佐員(知識科学) | 谷端 紀久子 |
| 平成27年12月15日 | 採用 外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター) | 長山(CHANG SHAN) |
| 平成28年1月1日 | 昇任 研究連携課長 | 谷 音次(薬学研究科事務長補佐から) |
| | 昇任 契約係長 | 志村 舞(レーザーエネルギー学研究センター会計係主任から) |
| | 採用 特任研究員(常勤)(医薬品化学) | 原田 絵美 |
| | 採用 特任研究員(客員教授)(生体分子制御科学) | 松本 佳巳(特任研究員(常勤)(客員教授)から) |
| | 採用 技術補佐員(先端実装材料) | 謝 明君(HSIEH Ming-chun)(第2プロジェクト(セルロースナノファイバー材料)から) |
| 平成28年1月16日 | 採用 技術補佐員(複合知能メディア) | 入江 洋子 |

離任教職員一覧 (平成27年10月1日～平成28年1月31日)

| | | |
|-------------|--------------------------------------|--|
| 平成27年10月1日 | 配置換 総務係員 | 花見 和子(医学部附属病院総務課庶務係へ) |
| | 配置換 契約係員 | 佐藤 愛子(基礎工学研究科契約係へ) |
| 平成27年10月15日 | 退職 特任研究員(量子機能材料) | WANG Zhiwei |
| | 退職 特任研究員(量子機能材料) | GHATAK Subhamoy |
| 平成27年10月31日 | 退職 特任准教授(常勤)(先端実装材料) | 長尾 至成(先端実装材料 准教授へ) |
| | 退職 特任研究員(常勤)(機能物質化学) | 坂本 勇樹(特任研究員へ) |
| | 退職 特任研究員(量子機能材料) | YANG FAN |
| 平成27年11月2日 | 任期满了 外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター) | CHOI Jungkweon |
| 平成27年11月30日 | 退職 特任研究員(常勤)(精密制御化学) | MUKHERJEE Sanjukta |
| | 退職 特任研究員(常勤)(ナノ機能予測) | 豊田 雅之 |
| | 任期满了 外国人研究員(客員准教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター) | Mohamed Almkhtar Mohamed Mahmoud ABDELMOLA |
| | 退職 特任研究員(ナノ構造・機能評価) | 孫 科孝(SUN KEJU) |
| | 退職 技術補佐員(先端実装材料) | 廣瀬 由紀子 |
| 平成27年12月15日 | 退職 助教(量子機能材料) | TASKIN ALEXEY(ケルン大学(ドイツ)へ) |
| 平成27年12月31日 | 退職 研究連携課長 | 吉崎 純子 |
| | 退職 特任研究員(客員教授)(生体分子制御科学) | 松本 佳巳(特任研究員(客員教授)へ) |
| | 退職 特任研究員(総合解析センター) | ISMIYARTO |
| | 退職 技術補佐員(量子機能材料) | 中村 ゆかり |
| | 退職 技術補佐員(第2プロジェクト(セルロースナノファイバー材料)) | 謝 明君(HSIEH Ming-chun)(先端実装材料 技術補佐員へ) |
| | 退職 事務補佐員(知識科学) | 本園 千鶴子 |
| 平成28年1月1日 | 配置換 契約係長 | 植林 玉樹(総務企画部国際交流課国際連携係長へ) |
| 平成28年1月29日 | 任期满了 外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター) | 長山(CHANG SHAN) |
| 平成28年1月31日 | 退職 事務補佐員(ナノ極限ファブリケーション) | 千代 安奈 |

編集後記

本号では、産研国際シンポジウムおよび同時開催となった定期記者会見の話題を最初に取り上げました。受験生に提供した阪大ノベルティ「勝負マスク」や、産研協会フロントオフィスの開設といった産研の重大ニュースのほか、学術講演会、ナノテックへの出展、アライアンス交流会・シンポジウムなど、話題に富んだニュースレターとなりました。最後にお忙しい中原稿をご執筆頂いた皆様にも厚くお礼申し上げます。(大倉 史生)

産研ニュースレター 2016.03 第57号

発行: 大阪大学 産業科学研究所 編集: 産研広報室
 〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 TEL&FAX: 06-6879-8524
 URL: <http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/> E-mail: kouhou@sanken.osaka-u.ac.jp